

〈論文〉

文化財としての「新会蔡李佛拳」と現代社会

張 偉 雄

本研究は中国の国家無形文化財（非物質文化遺産）に登録されている「新会蔡李佛拳」が伝統文化と現代社会との融合の中で、如何なる役割を示しているかについて考察するものである。考察資料は蔡李佛拳が中国の国家級非物質文化遺産に登録された2008年前後の各種の報道文、政府や民間の調査研究資料を中心とする。

蔡李佛拳について地元江門市の代表的な新聞である『江門日報』は次のように書いている。

蔡李佛拳术是新会崖门京梅人陈享于清道光十六年（1836年）集传统中国南北武术之长，立足于实战而始创的多达193套路的武术体系。蔡李佛拳历经172年传承至今，已发展成为广东省武术史上，传播最广泛，弟子和爱好者遍布全球五大洲超过100多个国家和地区，多达300万人习练的南拳主要拳种之一，在国际武术界享有“北有太极，南有蔡李佛”的盛誉。今年10月，经国家非物质文化遗产评审专家组实地考察，蔡李佛拳成功申报为国家级非物质文化遗产。^①

蔡李佛拳は新会崖門京梅村の陳享という方によって清朝道光16（1836）年に創出された武術である。中国の南北各種の武術の長所を取り入れ、体系的、実践的な練習套路が193もある。百数十年の歴史を辿って蔡李佛はいま世界中に広がって、数多くの国や地域に蔡李佛関連の施設や会館などがあり、練習する弟子は300万人がいると言われている。広東省の武術の中では最も広範囲に伝承されている武術の一つである。武術の世界には「北に太極拳があり、南に蔡李佛拳がある」と地元の新聞は蔡李佛拳が国家非物質文化遺産に登録された年2008年10月に、このように紹介している。

この広東の「新会蔡李佛拳」は南中国における民間芸能、民間武術、民間結社の精神的な拠り所であり、精神的修練、身体的養生のための作法としての要素も備えている。その文化的な影響力は非常に広いものである。蔡李佛拳の誕生の地である新会は、現在の行政区分としては広東省江門市の新会区となっている。

一、無形文化財として登録

中国の文化部は2006年に『国家級非物質文化遺産保護及び管理暫定方法』^②という通知文を発表した。

ここの「非物質文化遺産」(Intangible Cultural Heritage)とは日本語の「無形文化遺産」に相当するものだと思うが、便宜上、本文はそのまま「非物質文化遺産」中国語漢字の踏襲をする。この通知文の制定目的、文化遺産の保護と社会貢献、保護措置などについて、第一条、三条、十七条において、次のように書いている。

第一条 为有效保护和传承国家级非物质文化遗产，加强保护工作的管理，特制定本办法。

第三条 国家级非物质文化遗产的保护，实行“保护为主，抢救第一，合理利用，传承发展”的方针，坚持真实性和整体性的保护原则。

第十七条 县级以上人民政府文化行政部门应当鼓励，支持通过节日活动，展览，培训，教育，大众传媒等手段，宣传，普及国家级非物质文化遗产知识，促进其传承和社会共享。

通知文の制定目的については、非物質文化遺産の有効的な保護そして伝承のためであるとしている。また、また保護の基本原則については、文化遺産の保護救助は主目的であり、その上に合理的な利用、伝承であるとしている。さらに保護されている文化遺産に関して、県以上の政府の文化部門が、休日や祭り、展示会、勉強会、教育プログラム、あるいはマスメディアなどを通して、国家級の非物質文化遺産に関する知識を普及し、その伝承、社会的利用を促すことを明記している。

この『国家級非物質文化遺産保護及び管理暫定方法』が制定されてから、廣東新会政府は積極的に新会蔡李佛拳会とともに蔡李佛拳の「国家級非物質文化遺産」としての登録を進めてきた。その努力の結果、2008年に登録が成功した。このことについて地元の新聞が次のように報道した。

近日，国务院公布了第二批国家级非物质文化遗产名录，第二批国家级非物质文化遗产名录分为民间文学，传统音乐等10大类别。蔡李佛拳被列入传统体育，游艺与杂技类（杂技与竞技）。^③

それによると、2008年6月に中国国務院が二回目の国家級非物質文化遺産のリストを公表した。そのリストには、民間文学、伝統音楽など10種類に分けられている。中には

広東新会の蔡李佛拳が「伝統体育、遊芸と雑技類」に国家級の非物質文化遺産として登録されている。この国家非物質文化遺産への登録申請は、江門市政府の長年の努力の結果でもある。江門市としては蔡李佛拳の非物質文化遺産の登録によって、地域経済の活性化につなぎ特に観光業の振興に寄与できると考えていた。このことについて江門市観光局の責任者は次のように説明していた。

市旅游局有关负责人表示，今后将以蔡李佛，咏春拳馆为核心，协助协会开办武术会馆，武术学校，举办世界蔡李佛，咏春拳联谊会，武术观摩大赛等，吸引世界各地之武术人士到五邑切磋技艺，学习武术，以此打造尚武习艺之旅，使之成为我市八条旅游黄金线路之一。^④

江門市観光局の責任者は、江門市に観光の人気コース8本を育てたいとの発想で、その中の一本は「尚武習芸」つまり武術を尊び武芸を習う観光コースの創出である。中身としては蔡李佛拳、詠春拳などの組織と提携して蔡李佛拳、詠春拳の交流会や国際大会を開催し、世界各地の武術愛好家の訪問を歓迎するとのことである。これは蔡李佛拳を非物質文化遺産として登録することをめぐって、地元政府が地域振興策として考えたものであり、蔡李佛拳を現代社会の発展と接点を持たせる施策の一つである。この点について蔡李佛拳会会長の陳忠傑氏も同じような見解を述べていた。

为经济不发达的家乡做点事是我的初衷。以武促商，以商养武，保持传统，是我一直在寻找推广发展蔡李佛文化的平衡点，但现在只是起步阶段。^⑤

陳氏にとって蔡李佛拳を非物質文化遺産に登録させたい原点の一つは「経済の発展が遅れている故郷のために何かやりたい」というものである。蔡李佛拳をキーワードに、武術を利用して経済活動を促進し、また経済活動の活性化によって武術活動を支援してもらうということである。これは陳氏の伝統文化を守り、蔡李佛文化を広げていくための考えである。このような考えが2008年に蔡李佛拳が非物質文化遺産として登録成功に繋がったものである。

二、文化財「蔡李佛拳」の社会活動

蔡李佛拳が中国非物質文化遺産として登録しそれを有効に文化活動として、経済活動として展開していくために、蔡李佛拳会、そして地方政府は一連の努力をされた。

此外，新会区政府投入 100 万元，扩充从京梅村村口到始祖馆的道路；出版蔡李佛长篇小说《洪圣蔡李佛》，摄影集《新会蔡李佛》。在崖门黄冲小学挂“新会区蔡李佛武术学校”的牌子，利用体育课对小学生进行蔡李佛武术教学，并逐步辐射到全区中小学校。为了加大对蔡李佛武术的保护力度，新会区非物质文化遗产保护中心和新会蔡李佛始祖拳会制订了一系列保护计划：包括对蔡李佛拳术进行专项普查，建立系统的档案；对蔡李佛拳术传人实行保护，鼓励，建立传承机制；举办蔡李佛拳术培训班；把京梅村洪圣始祖馆作为蔡李佛拳术推广的重要基地，做好蔡李佛拳术发源地的保护和发展规划；组织专家学者和各武术流派名家，对蔡李佛拳术进行专题探讨研究；定期组织大型的国际武术交流活动，进一步提高蔡李佛拳术的知名度和影响力等。^④

この報道によると、非物質文化遺産登録申請前後に、新会区政府は 100 万元人民元を投入して、蔡李佛拳誕生の村である京梅村の入り口から蔡李佛始祖館までの道路を拡張し整備した。また地元の文化人に委託して『洪聖蔡李佛』^⑤という長編小説を執筆させ出版した。さらに蔡李佛拳を普及させるために、京梅村にある崖門黄冲小学校に「新会区蔡李佛武术学校」という名称を授与し体育などの科目において蔡李佛拳の指導をし、それによってさらに他の中小学校に波及していくようにした。

また蔡李佛拳の国際大会、シンポジウムの開催も計画的に行うことを決めた。以下武術の国際大会、蔡李佛拳映画の撮影、武術学校の設置、外国との交流などいくつかの典型的な事例を考察してみる。

(1) 武術大会の開催

江門市は蔡李佛拳などの伝統文化を利用して世界各地の武術の愛好者に呼びかけ、江門市において、武術を八つある観光コースの一つに育成していくことを表明していた。このような考え方に基づいて、蔡李佛拳が中国の国家級非物質文化遺産として登録が成功してから、その翌年に「広東第一回蔡李佛拳国際大会」を催した。

今年 10 月，经国家非物质文化遗产评审专家组实地考察，蔡李佛拳成功申报为国

家級非物质文化遗产。为庆祝申遗成功，进一步发扬和传承祖国这一宝贵的武术文化，主办单位决定举办此次省首届蔡李佛武术（国际）精英赛。消息发出后得到热烈响应，香港蔡李佛始祖陈享公纪念总会，澳门蔡李佛鸿威文娛体育会主动要求参与协办，国内和海外 50 多个单位 500 多名武术爱好者报名参赛。旅居澳大利亚的陈享公玄孙，蔡李佛五代嫡传人陈永发专程率团提前两天回到家乡新会观摩参赛。^④

この報道によると、蔡李佛拳の非物質文化遺産登録申請の成功を祝うために、2008 年 12 月 8 日に、江門市で国際武術大会が開催され、世界各地から 50 のチーム 500 名の武術愛好者が参加した。大会の参加者にはオーストラリアの蔡李佛拳チームを引率して新会に來た蔡李佛拳の直系の传承人陳永發氏がいた。

2008 年 12 月 6 日 -7 日、在新会举行的“庆祝蔡李佛拳申报中国非物质文化遗产成功暨广东省首届蔡李佛武术（国际）精英赛”上，矍铄老人陈永发受到了广大蔡李佛拳门生极大的尊敬。这位蔡李佛五代嫡传人不光因为自身精湛的技艺，还因为他为这门文化精粹所作推广的努力，深得人们的敬意。1983 年，陈永发前往澳大利亚，开始在海外广设医馆和武术会馆，像佛陀在鹿野苑传播佛法那样，传播着自己对医学和其他文化的理解。而他满天下的“洋桃李”，也佐证了中国文化的尊严和魅力。^⑤

報道によると陳氏 1983 年にオーストラリアに移住し、海外で武術学校を設置し現在多くの弟子を有している。陳氏は新会蔡李佛拳が国家非物質文化遺産として登録されたことを祝うことで弟子たちを、蔡李佛拳の発祥の地に連れてきたということである。それ以来毎年陳氏は必ず海外の弟子を引率して新会蔡李佛始祖館に來て、蔡李佛拳の稽古、蔡李佛拳の文化を体験するようになった。

(2) 武術映画の撮影

非物質文化遺産に登録してから蔡李佛拳をテーマとした文化イベントが多く開催するようになった。蔡李佛拳世界大会開催されてから一年後の 2009 年の 12 月に蔡李佛拳発祥の地である新会崖門鎮京梅村にある「蔡李佛拳始祖館」において、蔡李佛拳国家級非物質文化遺産登録申請成功を祝い、『蔡李佛拳 2010』という映画撮影の発表会を開催した。



映画撮影発表会

12月28日下午，我区在崖门镇京梅村蔡李佛始祖馆隆重举行“蔡李佛拳荣获国家级非物质文化遗产牌匾揭幕仪式暨电影《蔡李佛拳—2010》启动新闻发布会”。市、区领导何羨松，伍锦泉，吴瑞群，张莲友出席了发布会，并为蔡李佛拳的国家非物质文化遗产项目牌匾揭幕。近年来，新会蔡李佛登陆央视“武林大会”节目，出现在“日中友好交流周”闭幕式上，蜚声中外，影响深远，不仅成为新会对外交流的一个重要品牌，也是世界各国深入认识中国武术，了解中国社会的重要窗口。^⑩

江門市政府の報道によると、蔡李佛拳は新会の対外交流の重要な項目となったばかりではなく、世界各国が深く中国武術を認識し、中国社会を理解する重要な窓口となっていると指摘した。このような認識のもとで、江門市新会区において蔡李佛拳に関する映画作りを決定したものであった。

副区长张莲友在仪式上指出，《蔡李佛拳—2010》的开拍是保护和传承蔡李佛作为国家级非物质文化遗产的一项重要举措，我区将以开拍《蔡李佛拳—2010》为契机，加快蔡李佛旅游景区建设步伐，做到统筹规划，强化配套，力争早日建成蔡李佛武术展览馆，蔡李佛武术学校，演武场等，将蔡李佛打造成为我区文化旅游业的重要品牌，成为我区文化产业的重要增长极。^⑩

蔡李佛拳の映画撮影の効果について、張蓮友副区長は「『蔡李佛拳—2010』の撮影は国家级非物質文化遺産としての蔡李佛拳に対する保護、伝承の重要な措置である。新会区は『蔡李佛拳—2010』の撮影をきっかけにして蔡李佛拳をめぐる全般的に企画し、関連施設の建設も視野に入れて観光地の整備を早め、近い内に蔡李佛武術展示館、蔡李佛武術学校、演武場などを作り蔡李佛拳を新会区の文化観光のブランド品に作り上げて、新会区文

化産業成長の促進源にしたい」と述べていた。この映画の撮影、上映によって蔡李佛拳についての認識が広がり蔡李佛拳発祥の地である新会の知名度も上がり観光産業の発展にも寄与するようになってきている。

(3) 新会崖門蔡李佛武術学校

新会蔡李佛始祖拳会で展開している活動で、蔡李佛文化の継承と普及にもっとも有効な方策の一つとして注目すべきものは、小学校教育の場との連携である。この学校は、2007年に新会蔡李佛始祖拳会が新会区崖門鎮黄冲小学校の協力を得て設置したものである。黄冲小学校は、蔡李佛武術を体育の必修科目として設置し、週に三回蔡李佛の勉強をしている。武術の実技の他に武術文化や郷土文化などとも結び付けて学んでいる。これは学校自身が同時に武術学校とも兼ねるというユニークな試みである。黄冲小学校はまた新会蔡李佛始祖拳会の協力の元で、新会崖門蔡李佛武術学校校本教材『蔡李佛武術基礎』という教科書を編纂され、実際に教育の現場で使用している。



新会区崖門鎮黄冲小学校の生徒による演武

この新会崖門黄冲小学校兼蔡李佛武術学校のことについて、社会的な評価は高かった。地元の新聞『江門日報』は、論評の中で「わが国の武術は長い歴史を持っており、その範囲は広くその内容は深い。これは国宝である。武術は健康にもよいし、護身にも有効である。また修身養性的な効果がある。ある小学校が武術特色教育を開始してから学生の精神的な面だけでなく身体的な面においても大いによくなり、学習成績も向上し、学校の秩序もよくなった」と賞賛した。(筆者「新会蔡李佛に関する一考察」『札幌大学総合論叢』第27号2009年参照)。

(4) 外国との交流

蔡李佛拳は中国国家級非物質文化遺産として登録されてから、その知名度がさらに高くなり、国内でいろんな形の国際大会を開催するほかに、海外との交流にも力を入れている。2009年10月11日、札幌市内で「広東新会蔡李佛武術交流公演」を行った。当日の北海道新聞には「発祥地の迫力 中国武術公演」と題して「札幌大学孔子学院の招きで中国広東省の武術愛好家約20人が訪れ、同省発祥の武術「蔡李佛拳」を披露。中国武術の中でも一つ一つの動きが大きく、出演者たちは剣などを手に向き合い、躍動感あふれる演武を繰り広げた。」と報道した。



新会蔡李佛武術交流公演

蔡李佛拳が海外を訪れ武術の交流を行ったことについて、地元新会のテレビや新聞にも報道された。

10月中旬、新会蔡李佛始祖拳会表演隊遠赴日本、在北海道札幌市“庆祝新中国建国60周年“日中友好交流周”闭幕式上作压轴公演。表演队由副区长张莲友带队，一共有22名弟子参与演出，其中年龄最小的不到10岁。整个公演历时1个半小时，醒狮，徒手格斗已经让现场掌声不断，而以担挑，筷子，板凳等生活，生产用具作为武器的武术表演，更让日本民众啧啧称奇。在日本期间，蔡李佛始祖拳会表演队还得到了札幌市政府热情接待，并与札幌大学孔子学院以及当地的民间武术团体进行了交流。^④

この報道によると、今回の蔡李佛拳札幌公演は「新中国建国60周年」を祝して札幌で開催した「日中友好交流周」に合わせて開催されたものである。22名の団員からなった

訪日チームは一時間の公演で武術演武、獅子舞などを披露し、札幌市民の好評を得た。札幌訪問中には札幌市政府への表敬訪問、札幌の武術団体との交流なども行ったという。

三、文化的遺産の伝承

非物質文化遺産の伝承として蔡李佛拳はいろいろな文化活動を行っている。これらの活動において、どのような伝統的な思想、武術的な理念に基づいて行っているのか。考察の対象である。2006年12月7～9日、新会において「蔡李佛拳創立170年及び陳享誕生200年記念国際蔡李佛武術文化シンポジウム」を開催した。大会には中国国内そして海外から400名ほどの代表が集まった。以下このシンポジウムの代表発言から蔡李佛拳の理念、精神に触れていた部分を整理してみる。

蔡李佛の武術的文化について、「蔡李佛江門白沙洪聖館」の陳自強氏は蔡李佛の文化精神について次のように述べている。

精神，就是从不畏惧勇气和人无畏为英雄气概，也就是狭路相逢，勇者胜，勇而遇勇，则勇不可恃，既有享公的技胜络绎之武林豪雄的英雄气概，又有德服群雄为桑梓除患的和谐美意，以武会友，以德服人，技精而谦，以武强族这些概括就是蔡李佛精神。^④

陳氏がここで強調しているのは、蔡李佛の精神である。この精神は具体的に「武術を通して友に出会い、道徳を以て人の敬服を得ること。そして武術の達人であるが謙虚に過ごそう。武術を以て民族の健康と繁栄を促進する」という主旨である。これは中国武術の他の流派とも通じている発想である。

カナダ在住の蔡李佛武術家であるバンクーバー洪門体育会会長の姚崇英氏は蔡李佛拳の伝承すべき精神について次のように述べていた。

中华武术之所以受到广泛欢迎，关键是它一直以来都是宣扬忠，孝，仁，义，侠，礼，让，忍，恕，信的民族传统精神，尤其是尊师重道，更深入人心。^④

姚氏の言うには、中国武術の広く歓迎されている重要な理由は、その精神的な部分で、それは忠、孝、義、侠、礼、讓、忍、恕、信などの概念である。姚氏のこれらの概念は儒教的な思想と通じるもので、中国人世界一般に共通している理念とも言える。海外にいる華人にとってこれらの理念は立身出世の精神的な支えともなっている。続けて姚氏は、華

人としてカナダにおいて成功している多くの事例をあげて、次のように指摘した。

华裔加拿大人在这些辉煌成就中，其实是与中国的优秀传统文化密切相关，如国画，舞蹈，书法，音乐，国术，语文等方面在不同层面的途径上不知不觉地互相帮助，努力贡献，默默耕耘的结果。其中有一个不可替代的方面，就是中国功夫的传播和发展。

姚氏は華人のカナダでの成功の背景には、カンフー、中国武術との関係があると指摘している。中国の伝統文化にある絵画、舞踊、書道、音楽、武術、文学などが各方面から努力して黙々と貢献し華人たちの文化度を高め、成功の原動力となっていると姚氏は認識している。

以上のような指摘は非物質文化遺産となった蔡李佛拳の伝承する文化的な内容に繋がるものである。武漢体育学院湯立許らの研究グループの研究成果「蔡李佛拳非物質文化遺産的内涵及伝承」においても非物質文化遺産の伝承する文化的部分とは何かを論じている。

蔡李佛武学思想及拳法的理论依据，均得益于中国传统文化。其中有源于中国道家学说的“天人合一”，“道法自然”的思想；也兼容儒家学说的“仁义礼智信勇”之精髓，并将佛家禅学创始人禅宗六祖惠能主张的“无念为宗”，“真如境界”融汇其中，孕育蔡李佛拳长盛不衰。^⑩

湯氏らのグループは蔡李佛拳の思想と理論の根拠について、基本的に蔡李佛拳の理念には道教、儒教、仏教の思想が織り交じっているとの認識を示している。その中には道教の「天人合一、道法自然」、儒教の「仁義礼智信勇」、仏教の「無念為宗、真如境界」が中心的な思想となっていると指摘している。蔡李佛拳はその展開の道程で意識的あるいは無意識的に中国の哲学思想を取り入れて理論化してきたことは事実である。^⑪湯氏らはさらに次のように書いている。

蔡李佛在传承的过程中，始终倡导“天行健，君子以自强不息；地势坤，君子以厚德载物”的精神文化，来培养习武者吃苦耐劳，坚忍不拔，自强不息的精神。

蔡李佛拳は、「自強不息」「厚德載物」という精神を伝承していることにより、蔡李佛拳愛好者の苦勞に耐えられ意志力が強くて自ら強さを求めていくなどの精神も含まれていることを指摘している。このような蔡李佛拳の精神的要素について、新会区政府の調査報告

にも次のように書いている。

蔡李佛精神向来崇尚武德，注重“仁，智，勇”“真，善，美”，志在健身强体，安邦卫国，匡扶正义，为民济世。^④

蔡李佛拳の精神として武徳は大事にされている。武術は健康のために練習するものであり、同時に国の安定、社会の正義、民の救済のために働くものである。このような蔡李佛拳の志や理念などは蔡李佛拳が伝承すべき文化的な遺産であると新会区の政府調査文にも認識を示している。

四、文化遺産の伝承と商業化

新会より発祥された蔡李佛拳は200年近い発展の歴史の中で、中国重要な文化遺産として形成された。現在中国国内、世界各地で多くの蔡李佛拳団体が現れ、大きな武術流派となっている。伝承していく中、いくつかの問題点も現れている。「蔡李佛拳創立170年及び陳享誕生200年記念国際蔡李佛武術文化シンポジウム」の共通な話題の一つは、170年の歴史を経過した蔡李佛拳の各流派、各組織の間の相互提携、団結の問題である。この問題について、シンポジウムの基本見解は、流派が分かれても同じ蔡李佛拳として和を大事にすべきでとのことである。

シンポジウムでの発表者の一人であるキューバ共和国から来た黄宇文氏は「蔡李佛拳の団結、発展及び推進」を題に発言し、現在蔡李佛拳の存在している問題を次のように指摘している。

现在爱好及学习蔡李佛的人都以几百万计，教授蔡李佛拳的场馆也以数百来算。在这大好的局面下如何更好地团结，发展，推广呢？要团结起来就必须先有一个凝聚力，这种凝聚力在目前的情况下决不是某一两个前辈或高手其力所能及，也不是某一两个拳馆或小团体能有所作为。尽管不少的热心同门师傅或小团体都有不少的举措，想联系全世界的蔡李佛同门团结在一起，但目前还没有一个足让大家心服口服的人或团体具备这种号召力。^⑤

黄氏は、現在世界中に蔡李佛拳を練習している方が数百万人もいるし、蔡李佛拳を教授するセンターは数百もある。しかし各組織の間には一種の団結を維持する「求心力」が存

在していないことを指摘した。このような求心力は何人かの蔡李佛拳の達人がいればできるものでもないし、熱心な団体がいればできるものでもない和黄氏は考えている。各自散漫に展開している蔡李佛拳の各流派、組織を団結させるにはどうすればよいのか、これについて、黄氏は次のように提案している。

综观目前唯一最有凝聚力的就是始祖馆，因为它是世界各地蔡李佛弟子都信服的地方，它无私，是因为它是大家的；它无野心，是因为它是蔡李佛发源地，它更应该是一个彼此平等会聚的地方，在陈享师祖前，大家只觉得到家的温暖，它有足够的凝聚力，它应该有所作为，才能对得住始祖馆的荣誉。^④

「総合的に見れば、現在唯一求心力のあるところは始祖館である。何故ならここは世界各地の蔡李佛弟子がみんな信服しているところである。この始祖館には私利私欲が存在しない、なぜならここはみんなのものだからである。ここには野心がなく、ここは蔡李佛の発祥の地だからである。始祖館は互いに平等に付き合い集まるところである。陳享始祖の前にはみんな家庭的な温かみを感じられる。ここには十分求心力がある。始祖館はこのような役割を果たすべきである。これは始祖館の名誉にかかわるものである。」と黄氏は力強く示唆に富んでいる発言をした。黄氏は蔡李佛拳の組織の結束を保つ方法として、蔡李佛拳発祥の地である「蔡李佛始祖館」を注目している。



筆者の蔡李佛始祖館訪問

黄氏が蔡李佛拳会の発展の歴史と現状を見て、このような結束の呼びかけの必要性を感じていたのであろう。現実問題として確かに蔡李佛拳の結束力が緩くなり、蔡李佛拳の基本的な理念から離れて商業的な利益追求の動きが出ている。そのような動きについて、去年の末に広東の有力紙『南方日報』に「蔡李佛 名利の場であるか」と題する問題提起の記事を載せた。

蔡李佛，名利场？江门市区出现了蔡李佛功夫茶馆，蔡李佛养生馆，蔡李佛文化辅导中心等机构或场所引发了一系列争议。……武术文化传承之路究竟要怎样走，是坚守还是放任，借蔡李佛之名搞商业活动为何不受蔡李佛人认可？蔡李佛拳在壮大队伍的同时，探寻一条适应时代的市场化之路仍显坎坷。^④

この記事の背景には、蔡李佛拳の名称を利用して、商業的な活動に走る動きがあった。江門市にはいくつかの「蔡李佛カンフー茶館」や「蔡李佛養生館」「蔡李佛文化教育センター」などが現れて、論争を引き起こした。この論争には、いくつかの争点がある。武術文化の伝承はどのようにあるべきか、蔡李佛拳の名称を利用して商業活動を行う場合、なぜ非物質文化遺産の申請を認めてもらった新会蔡李佛始祖館の理解を得られないのか。蔡李佛拳の発展において如何にして時代の変化に適應できるように、市場原理を導入するのか、一連の問題点が存在している。

文化遺産を如何に伝承していくのか、武漢体育学院湯立許らの研究グループは、いくつかの提言をしている。

如今，蔡李佛拳改变了拳会以往靠会员费，社会资助，培训收入及一些庆祝表演收益维持日常会务的经营之道，走上文化产业之路，商业运作的两部影视作品《蔡李佛拳》、《蔡李佛——铁拳2010》即将问世。有关专家和学者对此忧心忡忡，认为过分商业化的传统民俗，失去了历史文化的底蕴，失去了文化遗产的意义。^⑤

蔡李佛拳が非物質文化遺産として登録されてから、文化遺産の伝承、維持にいくつかの努力をしてきた。その中には映画の撮影などもあった。しかし伝統的な文化遺産が行き過ぎる商業化によって歴史的文化的な中身を失ってしまう恐れがある。それなら文化伝承の意味がなくなると警告している。これについて湯氏らは同文で次のように提言している。

蔡李佛拳非物质文化遗产保护工作是一项专业性很强的具体工作，而各级行政领导不

可能在这方面都很内行，必须重视发挥内行，专家的作用，从保护名录的确定到保护措施制定，乃至在一些细节问题上，都要认真听取专家的意见，在实际工作中充分发挥主导作用，为保护工程的顺利实施提供组织保障和必要的经费支持。

蔡李佛拳非物質文化遺產の保護は専門性の非常に高いものである。専門家の意見を尊重した上、政府部門が経費の面でサポートしていかなければならない。専門家が文化遺産の保護において主導的な役割を發揮してもらうべきであると指摘している。文化伝承の専門家によって、経済的な利益ばかり追求する動きを止めるべきだとの提言である。

蔡李佛拳は200年近く伝承してきた。その中には波乱万丈の道程もあった。2008年に中国の非物質文化遺産として登録され、これによってこの中国の非物質文化遺産はもっと注目され法的に保護されやすくなる。江門市、新会区などの地方政府は蔡李佛始祖館、蔡李佛拳会などと協力して一連の保護措置、そしてその知名度を高める一連のイベントを開催した。非物質文化遺産の保護と伝承は、その文化の歴史的な意義、その文化的な理念、思想を理解して、それをも含めて保護伝承していくものである。『蔡李佛拳－2010』撮影発表会を行って間もなく、別の蔡李佛拳映画『蔡李佛』も同時に撮影が始まった。この別の蔡李佛拳映画の監督羅恵徳氏は「映画には国境がなくカンフーには大同がある」²⁸と言って、中国の伝統文化としての蔡李佛拳の過去そして将来の文化的なイメージを語っている。非物質文化遺産としての蔡李佛拳は将来にも明るく「大同」の道を歩いていくに違いないと信じている。

注

1. 「广东首届蔡李佛武术（国际）精英赛江门新会区开锣」『江门日报』2008年12月8日
2. 《国家级非物质文化遗产保护与管理暂行办法》中华人民共和国文化部令第39号 发文日期：2006年11月2日
3. 「蔡李佛拳入选第二批国家级非物质文化遗产名录」『江门日报』2008年6月17日
4. 「旅游文化看侨乡“武术之乡”薪火旺」『江门日报』2005年10月24日
5. 「传承人陈忠杰：蔡李佛属于中国的 更属于世界的」江门日报 2010年5月13日
6. 同上
7. 钟国权 谢维健著《洪圣蔡李佛》花城出版社 2006年10月
8. 「广东首届蔡李佛武术（国际）精英赛江门新会区开锣」『江门日报』2008年12月8日
9. 「文化传承陈永发」『南方都市报』2008年12月31日
10. “蔡李佛拳荣获国家级非物质文化遗产牌匾揭幕仪式暨电影《蔡李佛拳—2010》启动新闻发布会”。新会政府信息网 2009年12月30日
11. 同上
12. 新会テレビ報道原稿新会电视台 2009年11月12日
13. 「蔡李佛拳創立170年及び陳享誕生200年記念国際蔡李佛武術文化シンポジウム」資料集新会蔡李佛始祖館 2006年12月
14. 同上
15. 《体育学刊》第18卷第5期 华南理工大学 华南师范大学 2011年9月
16. 筆者の別論参照。「蔡李佛拳譜「行功秘要」の研究」『札幌大学総合論叢』第35号 2013年3月
17. 「关于蔡李佛武术文化现状及其发展的调研报告」政治协商会议新会区委员会 2007年
18. 「蔡李佛拳創立170年及び陳享誕生200年記念国際蔡李佛武術文化シンポジウム」資料集新会蔡李佛始祖館 2006年12月
19. 同上
20. 「蔡李佛，名利场？」『南方日报』2013年12月24日
21. 《体育学刊》第18卷第5期 华南理工大学 华南师范大学 2011年9月
22. 『蔡李佛』导演罗惠德「电影无国界 功夫有大同」广东新闻网 2010年7月16日

※本研究は平成22年度札幌大学研究助成による研究成果の一部である。